

(社)さいたま市私立幼稚園協会会報

第11回 教職員大会



今回の講師
菊地政隆先生

はじめに（協会長挨拶）

さいたま市私立幼稚園協会会長 勝田寿郎

平成25年6月22日（土）浦和区のロイヤルパインズホテルに於いて第11回教職員大会が行われ、五八〇名余の教職員が集まり、熱心に研修をしていただきました。当日は休日にもかかわらず、早朝よりご参集いただきましてありがとうございました。

また、お忙しい中、ご来賓として市長 清水勇人様、さいたま市議会議長 萩原章弘様、さいたま市教育委員会副教育長 因幡康久様、さいたま子ども未来局長 高瀬賢司様方々のご来賓のご出席を賜り開催することができました。

大会は「子どもの心を育てる遊び」と題して、講師の「菊地政隆」先生にご指導いただきました。体を動かし、大きな笑い声とニコニコ笑顔が子どもを迎える朝の顔をつくれること、そして、手遊び、体を使った遊びを使った子ども同士の遊びや、保護者同士のコミュニケーションにも使えるスキルを数多く教えていただきました。会場の若い先生方からも笑い声や明るい声が聞こえ、会場が楽しい雰囲気になりました。時間が経つのも忘れ、気が付くと、「まあ先生」の合唱に続き、手話が入った歌「こころの花」が響き終了かと思いきや、アンコールの拍手とともに本邦初公開の歌まで聞くことができました。

教職員の皆様には、日々忙しく子どもとともに生活し保育に従事されている中であって、この集いが「学び、出会い、交わり、感動」を共有する場となったことと思います。

私は、協会加盟園の皆様とこうして研修会で学びあえたことに大いなる喜びを感じています。なぜなら、皆様もご承知のとおり、研修・研鑽なくして教育・保育の質の向上は望めないからです。今後この教職員大会が、子どもたちの幸せな生活、保育につながる研修会であることを望みたいと思います。そして、研修会に参加した先生方に、この研修会で得たものを日々の保育に役立てていただければ幸いです。

最後に、ご参加いただいた皆様方、研修に参加いただきました各幼稚園園長、設置者の皆様に御礼申し上げます。



菊池政隆先生講演会（抜粋）

こんにちは、菊池政隆です。ぼくをご存じの方はいますか。もしかしたら、昔、ぼくの授業を受けたという方もいるかもしれません。TBSの『情熱大陸』に出演してから、ぼくの人生も大きく変わり、こうした講演会にもよく呼ばれるようになりました。静岡テレビでは歌のお兄さんもしています。

まずは自己紹介ですが、ぼくは東京・隅田川のほとりに昨年4月にオープンした保育園の園長をしています。園児は60人、1階が駐車場と保育園、2階はスーパ―、向かいの公園が園庭代わりという小さな保育園です。ぼくの実家は保育園を経営しており、現在都内に10カ所、来年4月には台東区に子ども園を開園する予定です。3代目のぼくは、そうした関係で幼いころからずっと保育に携わってきました。園長として以外にも、短期大学等の非常勤講師や講演活動、つい昨夜も都内の幼稚園でミニコンサートをしました。今まで多くの経験談を交えて、本日は保育について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

まずは、せっかくだので歌を歌いたいと思います。
歌「♪みんなの笑顔」

ありがとうございます。だんだん笑顔でいなくなってきましたか。ぼくは35歳で歌のお兄さんになり、今年37歳です。1曲歌うともうゼイゼイして大変です。普段は2時間で20曲以上は歌うのですが、今日は椅子とテーブルがありますし、あまり激しいものはいらないつもりです。

次はその場で立つてできる遊び、「もろこしカーニバル」です。

歌遊び「♪もろこしカーニバル」

これは園庭で子どもたちと一緒に歌えたらと思ってぼくが作った作品です。クラスを持っていたときに実際に歌っていました。こういう遊びを現場でしています。

ぼくは今まで保育士を9年、短大の講師を1年、園長が6年目です。思うのは、子どもたちは時代とともに変化しているということです。保育のテキストもこの10年でずいぶん変わりました。写真や事例が増えています。

テキストの中に、ぼくの大好きな事例があります。チュウリップの球根を植えた2人の園児への対応についてです。すぐに芽が出て、喜んで先生のもとに報告に来たAちゃん。芽が出なくて、がっかりしてやってきたBちゃん。この2人に保育士としてどのように対応するかという事例です。

実は、こういう人生の不平等を感じるシーンを、ぼくも経験しています。一生懸命に水をやって世話をしていた子の芽が出ずに、植えたのも忘れているような子の芽が先に出てしまうのです。芽が出ないほうの子に、ぼくは「大丈夫、そのうち芽が出てくるよ」と声をかけしまいました。ぼくは教科書とはかけ離れたことを言ってしまったわけです。しかし、だからといって、その言葉でその子が傷ついて非行に走るなどということはありません。では、保育の答えはどこにあるのでしょうか。

答えは、間違いなく皆さんの心の中にあります。目の前の子どもと信頼関係があり、さらにいろいろな背景を踏まえた上で、その子にとって最も適切な回答を出すことが、一番大切なのではないのでしょうか。先

ほどの歌も、ぼくがぼくの園の為に作ったものですから、皆さんの園でそのまま通用するかどうか分かりませんが、しかし、「私のクラスではできないわ」と終わらせるのではなく、「この遊びは、どうすればうちのクラスでできるかな」という意識でこの研修を受けてくれば、もっと身になると思います。

さて、実はぼくは、初めて保育士として勤務した園を1年で辞めました。ぼくは市の男性保育士第1号だったのですが、ぼくに求められたのは「ダイナミックな遊び」と「力仕事」の2つだけでした。それに応えることができず、とても葛藤を抱えて、仕事に対してもマイナスイメージを持ってしまい、結局1年で辞めてフリーターをしていたのです。

あることをきっかけに保育士に復帰して、まず思ったのは「人から信用される先生でなければいけない」ということです。そこで復帰してすぐの6月の保護者会でこの遊びをお母さんにももらいました。お母さ





んは、目が合えばうれしくなって笑います。目が合わなくても、気まづくなるのをごまかそうと、やつぱり笑います。いい雰囲気できたところで、「こういう笑顔あふれるクラスでがんばります」などと言うと言いたいことがあっても言わないお母さんが出てきます。

雰囲気を作ることはとても大事です。例えばとても優秀で有名なお医者さんでも、緊張して震えていたりしたら、患者から信用されるでしょうか。人は、まず見た目で判断します。ですから、まずは安心感を与える、そういう雰囲気を出すことが非常に大事なのです。お母さんに「この先生なら安心して子どもを預けられる」と思わせるような雰囲気は、自分でしか作り出すことはできません。

自分が作り出そうという意識を持たなければできないのです。

次は、隣の先生と向かい合っ
て握手を
してください。
ぼくが保育
の中でとて
も大事にし

ていることがあります。それは握手です。

ぼくはクラス担任のとき、20人の子どもを平等に見ることはできませんでした。気になる子にばかり目が行って、できる子はほったらかし。記録を書くときになって、やっとそれに気づくのです。しかし、握手をすることによって、たくさんさんの情報を得ることができました。まず分かるのは体温です。ある子どもの手を熱いと感じたら、その子は優先順位1位です。具合が悪くなるかもしれない、今日一番、目をかけないといけない子です。2つ目は、元気があるかどうかです。元気のない子どもには、必ず理由があります。保育園で過ごす時間は子どもの生活の一部でしかありませんが、その中でも気づいてあげられることはあるはずです。元気のない子には、いつもの1.5倍声かけをするようにします。

園長1年目のとき、発達障害で先生のことを「てんてー、てんてー」としか言えない子がいました。その子が卒園間近のとき、「てんてー、見てー」と泥だらけの石を持ってきました。「きれいだね。宝石みたいだ」と頭をなでると、満面の笑みを浮かべて、また別の石を拾いに行きました。見ていると、彼はきちんと選んで拾っている。大人には同じに見える石ころですが、彼の世界観の中では違うのでしょう。

泥だらけの小石の山を「家宝だよ」と言っても別の先生には分からない。その場にいたばかりと子にしか分からない世界観があるのです。子どものその世界観に気づくか気づかないかが保育のドラマです。「うわ、汚い石」などと言ったら終わりです。このことはお母さんにも伝えてほしいと思います。「気づき」は、子どもの成長をうながす何よりの起爆剤です。「気づ

き」を捉えて発展させるのは先生方の仕事だと思えますので、ぜひその点に気をつけてください。

さて握手に戻りましょう。もう一方の手でジャンケンをします。勝った人は握手しているほうの手を叩きます。負けた人は叩かれないように逃げてください。手抜きしないで真剣にやってください。いきますよ。

歌遊び「♪握手でこんにちは」

この遊びは、年長の担任のときに作りました。年長さんがこの遊びをすると、特に男の子は勝ち負け関係なく叩き合って喜びます。男の子が大好きな戦いごつこと同じです。とても盛り上がるので次の日も誘うと、男の子は喜ぶのに、女の子は「痛いからやりたくない」「先生、1人でやればいい」などと言います。年長にもなると女の子は怖いですね。結局、興味が続くように、子どもたちと一緒に様々なバリエーションを考えました。

保育には正しい判断基準がありません。保育の結果は20年後、30年後に出るので、今すぐには分かりません。この遊びを考えた当時、ぼくはクラス担任をしていていましたが、保育への達成感とともに、満足度が下がって飽きてしまう部分もありました。そのとき、自分で工夫をして保育を楽しくする努力をしました。そうしないと仕事を辞めたくなくなってしまいうからです。

今の遊びでも、「やりたくない」と言われて違う遊びを提供するのは簡単です。でもそれでは家庭のお母さんと同じになってしまいます。子どもにあえて投げかけてみれば、子どもは返してくれることにぼくは気づきました。今のような形を保育の中で展開すると、子どもはどんどん成長します。いろいろなこと気づくことができる子どもになるのです。



例えば昼食時、「先生、お皿持つてあげる」と手伝う子が出てきます。困った人がいれば助けてあげるといふ、その気づきがうれしいですね。入園したての3歳児がうろうろしていたら、「迷子みたい。お部屋に連れていくね」と、気づけるようになる。人の迷惑に気づけない大人が多いから幼稚な事件が起きていますが、目に見えない心というものをいかに育てるか、それが非常に大事です。そういう考えで、ぼくは自分で保育園を作り、保育を展開しているのです。

次に「手をつかめ」という遊びです。

歌遊び「♪手をつかめ」

この歌は、4歳児を担任していたときに作りしました。多動性症候群で、じつとできず、1週間登園すると1週間休むという子がいました。その子が髪を真ん中で分けていた主任先生の後ろから、髪分け目めがけてチョップをするのです。ぼくはその子の為にこの歌を作って、毎朝、その子と遊びました。これで人にチョップすることはなくなるとしたら、逆に誰彼かまわず人の頭をチョップするようになってしまいました。保育はやはりうまくいかないからこそ面白いし勉強になります。子どもの心はやはり分からない。それでも、その子の心に遊びで寄り添えればと思つて作つた作品です。

さて以前、ぼくのクラスに耳の聞こえない子がいました。ある日、遊びに行った公園で、帰ろうと皆を呼びましたが、その子は耳が聞こえないのでもちろん来ません。ぼくが、その子を探そうと歩き出したその時、他の子たちがその子呼びに行つてくれていて、みんなで一列に手をつないで戻ってきたんです。たまたまその子たちの後ろは真っ赤な夕焼けだったことも

あり、ぼくの心は感動でいっぱいになりました。

その経験をしてから、ぼくは子どもたちに声をかけるだけでなく、一人ひとりに心を寄せるように心がけています。その耳の聞こえない子の卒園にあたって作り、卒園式の時に皆で歌つた曲があります。「こころの花」という歌です。

歌・手話「♪こころの花」

ありがとうございました。私の経験談を交えて、歌や踊りを披露させていただきました。皆さんの明日からの保育に少しでも役に立つたら嬉しく思います。同じ保育の現場から、ともに頑張つてまいりましょう。本日はご静聴ありがとうございました。



参加者の声

とても楽しい歌や踊り、お話であつという間に講演会が終わつたように感じます。また、歌やリズムだけでなく、まあせんせいの子どもと保育に対する熱い思いを感じました。

保育の現場の経験からお話されたエピソードが、私たち保育者の心温まるものばかりで、「耳の聞こえない子」のお話では、周りの先生も目を赤くしていました。

(U幼稚園・HY先生)

明日にでも使えて、しかも子どもたちの好きそうな遊びや体操を教えてもらえてとても有意義な研修会でした。

また、歌の合間の、保育経験者ならではの体験談は、とても共感できるお話ばかりで、楽しく歌ったり踊ったりするだけでなく、改めて保育で大切なことを考えるいい機会になりました。

(G幼稚園・KH先生)

